

「プルーフ運用認証」標準化へ 環境に優しい機械の開発も

5月24日の定時総会で役員改選を行い小森義治氏から会長を引き継いだ宮腰巖会長の日本印刷産業機械工業会が24年度に向けてスタートした。

東日本大震災の影響を乗り越え、IGASを成功させた意欲をもとに、昨年9月に立ち上げたJapan Color認証制度の「マッチング認証」、「プルーフ機器認証」、「プルーフ運用認証」による標準化へ取り組むほか、印刷機械における温室効果ガスの「算定基準と運用」を調査研究事業で継続調査・検討して、日本の印刷物の底上げと印刷に関連する会社のコスト低減へ邁進する。

特別調査研究事業としての「温室効果ガス排出量の算定基準の策定」をもとに、環境に優しい印刷産業機械の開発および普及・促進に関する調査研究を推進する。

国の印刷関連産業全般の統計を収集するほか、整備、分析して精算統計品目における業界の実態を把握し、品目改定に向けた検討も行なっていく。

7月10日に設立されるISO/TC130国内委員会「特定非営利活動法人日本印刷産業標準化推進協議会(仮称)」へ積極的に参加し、関係団体と提携・支援を進めるほか、WC5(印刷産業関連)における標準化の推進支援業務を行なっていく。

JGAS 出展申込を開始

2013年10月2日から5日までの4日間、東京ビックサイトの東館ホールでJGAS2013(国際総合印刷機材展)を開催する。6月11日から出展申込を開始した。9月28日までに申し込むと、出展小間数に応じて出展料金の総額に対し5~10%の割引を行なう。

印刷関連機材を提供するメーカー・ベンダーの日本印刷産業機械工業会、プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会、印刷インキ工業会の3団体で構成される同協議会ではIGASおよびJGASを2年ごと交互に開催している。来年10月に開催するJGAS2013は主として国内およびアジアを対象とした国際展示会で、今回で4回目の開催となる。

JGAS2013では、印刷関連業界の一大イベントとして、最新鋭の機材や技術を提案し、活発なビジネス交流の場を提供する。さらに、drupa2012で発表された新製品や新技術の1年後の進捗状況が確認できる機会ともなる。

また、期間中に様々な特別企画やイベントを開催予定で、来場者拡大・出展者PRのためのプロモーションも実施する。